

第 7 次保健医療計画進捗状況について（災害時における医療）

1 取組状況及び今後の展開

小項目	今後の方向（医療計画記載事項）	取組状況	今後の展開
（１）災害医療の コーディネート 体制の構築	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 災害時の医療支援の調整の中心的役割を担う「災害医療コーディネーター」については、県内の複数地域が被災した場合や災害対応が長期化した場合に備え、必要な人材を確保していくとともに、関係機関を交えた研修・訓練等の機会を通じて、調整力の向上や連携の強化に努めます。</li><li>○ 被災地への医療チームの迅速な派遣や、県外を含む被災地からの患者の受入など、災害時における医療支援が円滑に実施されるよう、市町村、保健所、関係団体及び医療機関等の関係者による研修・訓練等を通じて、関係機関に対する指示系統の確立に努めるとともに、関係機関の連携体制、調整機能の強化及び災害医療のコーディネート体制への理解促進を図ります。</li><li>○ 災害時の要配慮者の医療ニーズの円滑な把握方策について検討し、地域の災害拠点病院や保健所等を中心としつつ、災害時における小児医療、周産期医療、透析医療、在宅医療など地域の医療機関が連携・協力した体制の構築に努めます。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 災害時に災害弱者となりうる小児や妊産婦の医療ニーズの情報収集や医療支援の調整を行う「災害時小児周産期リエゾン」を新たに位置付け、災害時の医療支援の調整を総括する災害医療コーディネーターと連携した体制を構築し、小児周産期領域を含めた災害時医療支援体制の充実を図った。</li><li>○ 市町村、保健所、関係団体及び医療機関等の関係者による研修・訓練を実施し、災害時における各主体の役割や連絡体制、災害時医療に関する情報管理や調整業務の理解促進・習熟を図った。</li><li>○ 平時から、災害時の医療救護活動に関する関係団体（医師会、歯科医師会、看護協会、薬剤師会、透析医会等）との会議等を実施し、災害時医療の連携体制の強化を図った。 また、災害時小児周産期リエゾンを位置づけ、災害時における小児や妊産婦の適切な医療機関への搬送等を調整する体制を構築した。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ （公社）福岡県薬剤師会が行うモバイルファーマシー導入への支援、及び災害時に薬事全般の調整を行う災害薬事コーディネーターの配置により、災害時における医療支援体制を更に強化する。</li><li>○ 引き続き、現在の取組みを着実に実施する。</li><li>○ 災害医療コーディネーター（災害時小児周産期リエゾンを含む）については、引き続き、人材の育成・確保を進めるとともに、会議・訓練等の開催を通じて、平時から「顔の見える関係」の構築に努める。</li><li>○ 今後実施が見込まれる九州ブロックの広域災害医療訓練等の本県開催に向け、必要な検討に着手する。</li><li>○ 「福岡県災害時医療救護マニュアル」の見直しを行い、「保健医療調整本部」や「災害時小児周産期リエゾン」の位置付けの明確化等、最新の知見を取込み、災害時における円滑な連携体制の整備を図る。</li></ul>
（２）災害時の情報共有の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 各医療機関及び関係機関に対する「ふくおか医療情報ネット（災害情報業務）」の訓練等を行い、被災地における医療需要情報及び非被災地における支援情報を円滑に収集して、関係機関で情報共有する体制の確立を図ります。</li><li>○ 医療機関が被災した場合の診療情報の遺失防止対策や、かかりつけ医以外で医療を受ける被災者に係る診療情報の円滑な提供の観点から「福岡県医師会診療情報ネットワーク（とびうめネット）」の災害時バックアップ機能の利用や患者登録を推奨し、その利用拡大に向けた支援に努めます。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 毎月、県内各地域での被災想定を設定し、ふくおか医療情報ネット（福岡県広域災害・救急医療情報システム）の入力訓練を実施しているほか、福岡県総合防災訓練の際、被災想定に合わせて、入力訓練を実施している。</li><li>○ 災害時における診療情報のバックアップや共有などを行うため、福岡県医師会の診療情報ネットワーク事業（とびうめネット）の支援を実施している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 引き続き、現在の取組みを着実に実施する。</li><li>○ ふくおか医療情報ネット（福岡県広域災害・救急医療情報システム）の更改にあわせ、登録情報項目の充実を図るとともに、医療機関に対して、情報入力に遺漏の無いよう注意を促す。</li><li>○ 災害拠点病院等、地域医療に一定の役割を担っている病院を中心に、とびうめネットの利用拡大を促す。</li></ul>
（３）災害拠点病院等の整備	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 災害時に地域の医療の拠点となる災害拠点病院の指定を進めるとともに、業務継続計画（BCP）の策定や、施設・設備（化学災害等対応設備を含む）の整備など、災害拠点病院の充実強化に向けた支援に取り組みます。</li><li>○ 大規模災害発生時に福岡空港又は北九州空港での設置が想定されるSCU（航空搬送拠点臨時医療施設）の運用について、近隣の災害拠点病院が協力する体制の構築に努めます。</li><li>○ 災害拠点病院以外の病院についても、災害時において入院医療や外来医療の提供が継続できるよう、施設の耐震化や業務継続計画（BCP）策定の支援に取り組みます。</li><li>○ 災害時における精神科医療を提供する上での中心的な役割を担う災害拠点精神科病院のあり方について、検討していきます。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 災害拠点病院が整備されていなかった宗像保健医療圏において災害拠点病院を指定（宗像水光会総合病院）し、体制の充実を図った。</li><li>○ 災害拠点病院の施設・設備整備に対する財政支援を実施し、体制の強化を図った。</li><li>○ 国主催の大規模地震時医療活動訓練の機会を通じて、DMAT 隊員の協力のもと、SCU 展開訓練を実施した。</li><li>○ 災害拠点病院以外の病院も対象とした施設の耐震化への財政支援や、業務継続計画（BCP）策定に関する研修を開催した。</li><li>○ ふくおか DPAT 運営委員会の中で、設置方針や指定要件についての協議を行っている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 引き続き、現在の取組みを着実に実施する。</li><li>○ 災害拠点病院が行う施設・設備整備に対し、引き続き財政支援を実施する。</li><li>○ 災害拠点病院以外の病院が行う耐震化や業務継続計画（BCP）策定の取組に対し、引き続き支援を実施する。</li><li>○ 県内に少なくとも 1 ヲ所以上の災害拠点精神科病院を整備する。</li></ul>

（４）医療チームの体制等の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 国が実施する講習・訓練等のほか、県独自の講習会等の開催により、各災害拠点病院が保有するDMATのチーム数の拡充や隊員の技能維持を図ります。</li><li>○ DPATについては、精神科医療機関との連携を深め、体制の充実を図ります。</li><li>○ JMATを始め各団体が派遣する医療チームの体制及び機能の充実を図るとともに、災害時において迅速かつ円滑に医療チームが派遣されるよう、平時から関係団体との連携に努めます。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 県内の精神科医療機関等と協定を締結し、DPAT の派遣体制の整備を図っている。</li><li>○ 国主催のDMA T養成研修に、災害拠点病院から医療従事者を参加させるとともに、県独自の <b>DMAT</b> 養成研修も開催し、隊員の養成を実施している。</li><li>○ 災害拠点病院、消防機関等で構成する <b>DMAT</b> 運営委員会を設置し、平常時からの連携体制の構築に努めている。</li><li>○ 関係団体が参画するメーリングリスト等を活用し、平常時からの連携体制の構築に努めている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 県主催の隊員養成研修を継続して実施し、DPAT チーム数の拡充や隊員の技能維持を図る。</li><li>○ 引き続き、現在の取組みを着実に実施する。</li><li>○ 養成した <b>DMAT</b> 隊員の活動時の安全性向上を図るため、加入保険の見直しを検討する。</li></ul>
（５）原子力災害への対応	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 原子力災害対策指針の改正に伴う原子力災害拠点病院の指定、及び原子力災害医療協力機関の登録を進め、被ばく傷病者の除染や治療を行う原子力災害医療体制の構築を行います。</li><li>○ 原子力災害拠点病院及び原子力災害医療協力機関の設備の充実強化に向けた支援や訓練に取り組むとともに、平時から安定ヨウ素剤の予防服用に関する情報提供に努めます。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 原子力災害拠点病院として九州大学病院と指定するとともに、6 医療機関を原子力災害医療協力機関として登録した。</li><li>○ 原子力防災訓練において、住民の避難退域時検査・簡易除染訓練、安定ヨウ素剤の緊急配布訓練及び被ばく傷病者等受入訓練を実施した。</li><li>○ 原子力施設からおおむね 30 k m以内に居住する糸島市住民に安定ヨウ素剤の予防服用に関する情報を郵送により提供した。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 引き続き、現在の取組みを着実に実施する。</li><li>○ 原子力防災訓練を実施し、原子力災害拠点病院及び原子力災害医療協力機関との連携を確認し、医療体制の充実を図る。</li><li>○ 安定ヨウ素剤の予防服用に関する最新の情報提供に努める。</li></ul>

2 数値目標の達成状況

目標項目	現状（H29）	H30	R1	R2	R3	R4	R5	推移	目標値（R5）
災害拠点病院の耐震化率（患者が利用する建物）	86.7%	87.1%	90.3%						100.0%
ふくおか医療情報ネットの入力訓練における入力率（入力要請から1時間以内）	36.2%	26.0% （災害拠点病院 93.5%）	20.6% （災害拠点病院 64.5%）						75.0%（災害拠点病院は100%）
取組状況（目標値達成のために実施している施策(事業)等）	災害拠点病院の施設・設備整備に対する財政支援、ふくおか医療情報ネット（福岡県広域災害・救急医療情報システム）の入力訓練								
今後の取り組み方針（今後の方向性等）	引き続き、災害拠点病院の施設・設備整備など災害医療体制の充実・強化に努める。								

推移：（改善）上斜矢印   （横這い）横矢印   （悪化）下斜矢印

3 進捗評価

達成状況	進捗総合評価（A～E）	理由
	B	災害拠点病院の耐震化率は向上しているため。

A：達成    B：順調に進捗   （数値の変化が見られない場合であっても施策の実施状況等から順調と判断できるものを含む）    C：引き続き施策を実施    D：未着手等策(事業)    E：その他